

Title	「ユートピア」島より「新アトランチス」島への移動
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1925
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.19, No.3 (1925. 3) ,p.317(1)- 344(28)
JaLC DOI	10.14991/001.19250301-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19250301-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

時事新報

曾て卒先十二頁を發行した時事新報は
更に十四頁新聞の魁を致しました

讀者の激増と共に隨々の階級有らゆる趣味を満足
させる爲めに紙面の拡張を感したからであります

紙幅の廣大と内容の充實せる

點を考ふれば一ヶ月定額

一圓の時事新報は最善

且つ最廉の新聞

であります

□ □ □

朝刊—十頁

夕刊—四頁

外に毎週漫畫附録



東京市橋本區 時事新報社 電話 四三九六 五九三

三田學會雜誌 第十九卷 第三號

「ユートピア」島より「新アトランチス」島への移動

高橋誠一郎

現世的ユートピアの思想は決して中世的のものに非ずして、全く人本主義的のものであり、文藝復興期に發するものである。(Ernst Troeltsch, Die Soziallehren der christlichen Kirchen und Gruppen, 1912, S. 331, 421.)。フランドーの「理想國」篇に Sir Thomas More (Hovitzky) の「對比傳」(Bios Haggdiary) 中に於ける「ソコウハムス」(Sokohamus) は憧憬の眼を以て神話的過去を顧るものであり、Marcus Tullius Cicero の De Republica は國家なる名辭を理性及び公正の支配のみに限定し、而して其の支配下に自然の優者が自

然の劣者を支配するものと解し、之れを以て精神が肉體を支配するに比較せんとしてゐるが、而も此の著は思想史上重要視するに足らざるものであり、又た Sanctus Aurelius Augustinus の *De Civitate Dei* は羅馬帝國の崩壊が異教の腐敗に由るものであつて、基督教の隆興に基けるものに非ざるを主張する辯難的論文に過ぎざるものである。

基督教の創始者が其の信徒の安住す可き「神の國」を此の世の邦土と區別するが爲めに最大なる注意を用ひたることは吾人が他の機會に於て述べたるが如くである。「三田學會雜誌」第十七卷第八號所載拙稿「原始基督教の社會思想」參照。而して中世の思想家は會つて完全なる現世的社會を求むることがなかつた。而も基督教が國教として承認せられ、高き僧職を教會に占むる者は巨額の教會財産の保管者として俗界に於ける上層階級と同化するに至つた時、多數の基督教徒は教會が異教的社會と順應せんとして、あるを嫌忌して清淨なる宗教的生活を送るが爲めに田園に退隱するに至つた。僧院生活と制欲主義とは教會と國家との融合より生じたる准政治的なる專制的教會に對する自然的反動の結果であつた。現世

に於ける身的自由と自己表現とを奪はれたる人々は唯だ一向に死の彼方なる生活に憧憬した。彼れ等は遁世によつて永遠の天恵を確保せんとした。ユートピアは此の地上より天空に移植せられた。現實の世界は罪過と煩勞とを以て満ちてゐる。人は現世に在つては罪過を悔い改め、墳墓の彼方なる生活に業苦煩勞の繫縛より解脱せる安居の地を看出すの外、何事をも爲し得ざるものである。斯くて若し「神の國」を以て基督教的ユートピアと觀るならば、それは確定不動のものである。固より人は神の國に到るの通券を與へられたならば、此處に入ることが出来る。而も彼れは毫も此の天國を創造し、若しくは模塑することを得ざるものである。(Lewis Mumford, *The Story of Utopias*, 1922, p. 59.)

然しながら遁世に依つて久遠の天恵を得んとせる人々と雖も、終に社會的衝動を拒むことを得ずして、僧尼の團體を組織した。洵に僧院團體は宗教的基礎の上に建設せられ、宗教的動機によつて鼓舞せらるゝ、産業的共同主義の典型を與ふるものであつた。而して基督教は一面に於て經濟生活を醗酵せしむるの効果を有して居つた。洵に羅馬帝國に於ける最大なる缺陷は其の制度が私的企圖に對し

て殆んど何等の餘地をも残すことなく、資本家及び勞働者の精力を抑制するの傾向ありし事實に存する。然るに基督教の教旨は直接に個人の前に無窮の前途を展開し、永遠の希望によつて彼れを鼓舞し、以て勤勉と活動とに赴かしめたのである。聖 Augustinus は其の *De Opere Monachorum* に於て勞作を以て宗教的生活に避く可らざる要素と做すの意見を力説し、使徒パウロが「テサロニケ人に贈れる後の書」に於て「人若し働く事を否まば亦た食す可らず」と戒めたる言に對して不自然なる解釋を行ふ僧侶の詭辯を非難した。(Jacques Paul Migne, *Patrologiæ Latine Cursus, Completus* 184-55. xl, col. 549)。羅馬教會の僧侶は蠻民の侵略と帝國の崩壊とに由つて純然たる藪林と化し去れる西歐の沃野を恢復せる開拓者であつた。彼れ等は土地經營に關しては羅馬の傳統を維持し弘布する事が出来た。Gregorius 大法王は其の代官をして、シ、リアに於ける廣大なる法王領の農耕及び牧畜を適當に差配せしむるに銳意であつた。僧院は又た教會の建築及び造作に關する中世最良の技工を供給することが出来た。Canterbury の大僧正聖 Dunstan の物語は彼れの時代に於ける最も著名なる僧侶が如何に其の生涯の多くを肉體的業務に費したるかを想

起せしむるに資するものがある。Clotaire 二世の寵を受けたる王室金匠 Noyon の僧正聖 Eligius (Eloi) は彼れが六百三十一年を以てノーリーヌヌエーに建立せる僧院に五百人より成る工業團體を創設した。(Vita S. Eligii, l. cc. xv, xvi, Migne, op. cit., lxxxvii, col. 493)。而して第十一世紀の終に於てはツェルテンムルヒなるホルンシャットの僧院は優秀なる工業團體として認められてゐた。(W. Cunningham, *Christianity and Economic Science*, 1914, pp. 22, 23)。

「異邦人に對する使徒聖パウロの使命は全世界に於ける凡ゆる國民の間に基督教の宗教を弘布するに在つた。斯くて羅馬帝國の唯中に基督教共和國 (Repubblica Christiana) は忽然として興起した。而して凡ゆる中世思想の標識は其の世界主義であつた。それは單一なる世界的社會の存在を假定する。此の單一なる世界的社會は其の俗世的方面に於ては古羅馬帝國の繼承及び持續であり、其の宗教的方面に於ては現實的教會に於ける基督の降生である。洵に羅馬教會は福音によつて淨化せられたる古羅馬帝國であつた。肉の世界的帝國に關する傳統は靈の世界的帝國に關する其れと化して羅馬教會内に存続した。羅馬帝國の瓦解は分離せる

諸王國の隆興を來した。而してそは又た甚しく俗人の支配下に降れる別個の領域的教會、即ち獨逸人の謂ゆる「國立教會」(Landeskirchen)の發生を致した。斯くして失はれたる世界主義を俗界に於て復活せしめんとせるものが Carolus Magnus の事業であり、教界に於て之れを復活せしめんとせるものが Gregorius 七世(聖 Hildebrand)の事業であつた。(The Social and Political Ideas of some Great Mediaeval Thinkers, a series of lectures delivered at King's College University of London, ed. by F. J. C. Hearnshaw, 1923, pp. 12-13.)

秩序の恢復に伴れて遠隔地方間の往來交通が可能の程度を増加せる時、交易は自から産業の發達顯著なる地點に集中するの傾向があつた。而して諸僧院は商業上の便益を享有するに至つた。Meroveus 王朝及び Carolus 王朝は共に僧院に土地を寄進し、通商上の特權を之れに許與して、其の建立を獎勵した。斯くの如くして開かれたる新機運は僧院の生活の性質を變化せしむるに至つた。僧院は財貨の購入を行ひ得るに至つて、自給自足的共同團體たるの實を失へるが故に、其の繁榮は最早全然地方的勞働組織に依頼することなきに至つた。利用し得可き財貨は

増加した。分勞の機會は増加した。修道僧は農業を隸民若しくは半隸民に委することが出來た。他の部門の筋肉勞働は大部分講中の俗人の手に遂行せられた。修道僧は次第々に謄寫及び文學美術に盡瘁するに至り、普通の肉體的業務は修道僧の日常生活に於て主要なる地位を占むることなきに至つた。第十一世紀に於ける Benedict 教團の大僧院は現世より退隱せる自足的生活を表示することなきに至つた。蓋し是れ等のものを中心として繁忙なる商的團體の發生を見たるが故である。是れ等の富裕なる少數團體は自餘の町民を支配せるも、而も殆んど其の義務を分擔することがなかつた。然しながら古來の理想は猶ほ其の命脈を保つてゐた。新教團の創立は原始的性質を有する經濟生活に復歸せんとするの企圖であつた。特に Citeaux (Cistercium) 教團は僧院生活に缺く可らざる至要の地位に勞働を復歸せしめんとするに銳意であつた。組織的經濟生活としての僧院の成功其の者は之れが宗教的性質を脅すものであつた。而して中世の後期に於て僧院が經濟的に最善の効果を擧ぐることに能はざるに至りたる時、都市的生活と都市的施設とは非常なる發達を遂げた。産業生活の自足的中心としての僧院の繁榮

を脅しつゝある交易の發達は都市の發生繁昌を可能ならしむるの條件を賦與したのである。(Cunningham, op. cit., pp. 24, 25.)

中世基督教會の權威が其の頂點に達したる第十三世紀は又た都市の住民たる商人及び職人が次第に自己の力を意識し、自治市が其の相互の利益の爲めに團結しつゝあるの時代であつた。アクイノの聖 Thomas は都市に於て基督教的社會の典型を認めた。封建制度の大堂宇を崩潰せしむるに至る可き龜裂の前兆は既に其の内部に生じつゝあつたのである。偉大なる第十三世紀の終末と共に新たなる叛起、混亂、異端、分離は生じて來る。基督教國の理想的統一は解けて、民族的國家の爭覇戰は生じた。神的平和の幻想は人間の不和の現實の前に消えた。帝國の觀念を去れる民族的國家の觀念は次第に強烈と爲つた。民族化的傾向の最も顯著なりし各地方に於て封建的貴族の政權は初め強調せられて、總がて著しく衰頹した。都市の政治的意義は愈々重要と爲つた。貴族階級の優勢なりし時期に於て苦楚を嘗むると甚しかりし英、佛及び西の市民は今や國王と結んで貴族階級を倒壞す可き大勢力と爲つた。國民を以て單位とせる現俗的國家は生誕して、神の

國は人民の歸順を失つた。而して中世の衰頹を表示する變化と不安の時期を通じて天上のユートピアは地上のユートピアに轉じた。

二

既に一千〇九十六年より一千二百七十三年に亘れる十字軍は著しく歐洲の産業生活を發達せしむるに資し、併せて人心を釋放し、人民の知性と想像力とを刺戟することが大であつた。第十四世紀の初葉に出版せられたる Marco Polo の旅行記は世界の廣袤、廣大なる文明の範圍、遠隔地方に於ける多様の社會形態及び社會制度に對する注意を増加せしめ、著しく心知の水平を擴大せしめた。第十三、四世紀に於て夫役を變じて貨幣地代たらしめたる、自由賃銀労働者階級の發生を見たりとは領主自用地の耕作をして多く雇傭労働者によつて行はれしむることゝ爲つた。一千三百四十三年を以て地中海沿岸の南歐に發生し、爾後二ケ年間北方に蔓延して猖獗を極めたる黒死病は歐洲の人口を三分の二若しくは二分の一に減少した。隸民階級は是れに由つて其の大多數を失つた。労働は稀少と爲り、既に一世代前よりして騰貴しつゝありし勞銀は五割方増加するに至つた。「労働者條

例(Statute of Labourers)は勞働供給を統制し、勞銀をして舊時の水準を維持せんことを企圖した。然も這般の法制は大部分無効であつた。下層階級は巢立の雛の如く彼れ等が翼を有することを悟るに至りつゝあつた。階級的分岐の過程は黒死病によつて促進せられた。此の時代よりして階級的意識は漸次發達し、認識せられたる階級的利害は現出するに至つた。(Joyce Oranel Hertzler, The History of Utopian Thought, 1923, p. 122.)。而して領主は其の領地に於ける在來の借地人によつて支拂はるゝ小額の小作料金より其の自用地の要する勞働を雇入るゝに足る資金を取得すること不可能なるを看出した。貨幣を以てする勞働勤務の代償は領主よりして強制勞働を奪つた。而して勞銀の昂騰は彼れをして雇傭勞働を使用するを得ざらしめた。中世の莊園的勞働組織は崩壞した。領主は次第に自用地の耕作を廢して之れを借地人に貸出すに至つた。(R. H. Tawney, The Agrarian Problem in the Sixteenth Century, 1912, Part I; Frederic Austin Ogg, Economic Development of Modern Europe, 1918, pp. 28-29.)。

第十五世紀の初期に於て土耳其の脅威加はると共に希臘學者は未だ西歐の諸

學者に知られざる古希臘の文豪及び哲學者の著せる貴重なる幾多の寫本を携へて東方より西方に移つた。彼れ等は又た攻學の精神と知識欲とを彼れ等と共に齎した。本源の資料に據れる古典文學の研究は復興した。新たなる文學は學問が從來取扱はれ來りし硬直にして非批判的なる態度に對して挑戰した。經濟的活動と地理的發見とが次第に重要な度を加ふると共に、現世的思想は神學的權威より自己を釋放するに至つた。未だ基督教徒は信仰を棄つることはなかつた。而も彼れ等は神學的思想と現世的思想との間に分界線を劃した。神、靈魂及び不死は信仰の主題であつて、知識の其れではない。宗教は三段論法によつて推究し、若しくは證明せらるゝことを得ない。斯くの如きものは英國に於ける名目論、即ち Duns Scotus 及び Ockham の William の哲學の究竟の結論である。然らば理性を以て信仰の侍女たらしむるは無用である。理性の領域は感覺的世界であり、其の方法は Roger Bacon の教ゆるが如く實驗である。神學的教條は論理學に於ては許容し得ざるものであるかも知れぬが、而も尙ほ宗教に於ては眞なるものである。斯くて信仰の領域と理性の領域は分離せられた。基督教徒は彼れが其の理性を

無限に行使して自然哲學及び現世的政治學に盡瘁しつゝあると同時に、著しく敬虔であり、其の信仰は純潔なることが出来る。合理主義的要素は基督教徒の生活に入り込んだ。理性は最早信仰によつて抑制せらる可き不逞なる力に非ずして、人事を處理するに際して人間の正當なる援助たるものであつた。然しながら信仰と理性との間に於ける権力の分割は其の對抗を來さしむ可き運命を有してゐた。洵に幾許ならずして人は善惡の選擇を行ふに際して理性の援助を求めんとした。倫理學は合理化せられた。最後に理性は創造力を賦與せられた。正しき理性は大教育家、立法者若しくは大哲學者を通じて完全なる國家、有徳多幸なる國民を創造し、人間墮落の重大なる結果を矯正することが出来た。人本主義者は殆んど斯くの如き發達を危惧することがなかつた。而も這般の傾向は事實上存在して、彼れ等が現俗的性質を有する錯雜せる問題を取扱ひつゝある際に明瞭と爲つたのである。何等の矛盾を意識することなくして人本主義者は善良なる羅馬加特力教徒であり、希臘哲學及び文學の愛好者であつた。彼れ等は聖 Augustinus と ロウキアノス (Lactantius) の兩者を鑑賞することが出来た。彼れ等は法王の權威に

對して忠實なる者であると同時に理性を尊崇する者であつた。理性に於て道念の究竟の支配を見るを得たるロウターダムの Desiderius Erasmus は羅馬加特力教徒として世を終つた。而して理性の神化にして自然神教的倫理學たる *De optimo reipublicae statu deque nova insula Utopia* を草したる Sir Thomas More は其の信仰の爲めに殉難した。(M. Beer, *A History of British Socialism*, vol. I, 1919, pp. 31-32.)

ルネサンスは再び人間の思想を改革の問題に誘つた。人本主義者は無用たる詭辯的論争に盡瘁せずして、其の身を人類の精神的心意的及び社會的福利の論述に委ねた。茲にプラトーンは彼れ等の間に甦つた。此の新學問の普及は約一千四百五十年の交に於ける紙及び印刷の誘入によつて著しく速進せられた。Columbo の亞米利加發見、Vasco da Gama の新航路發見及び Copernicus の地動説は決して地理學と宇宙學とに貢獻するに止まるものではなかつた。是れ等のものは人々をして其の従前の見地の狭少なりしとを實認せしむるに資した。新たなる世界は人々の前に生れた。而して彼れ等は舊生活方法の瑕玼を洗滌せる新生活方法を生ぜしむ可きとを確信した。當時新文化及び新社會哲學の知識的刺戟は新たなる

地理上及び天文學上の發見によつて助勢せられて理想的世界に於て生ず可き人間の成全性の概念を人々に與へた。人々は地上の生活をして最良可能ならしめんとするの熱火を點せられた。斯くの如き事情が再びユートピアの文學を發生せしめたことは敢て異とす可きではない。(Hertzler, op. cit., pp. 124-126.)

三

MoreのUtopiaはプラトーンの「共和國」に導かれて新たな社會的「思索」の方法を誘入した。ユートピア的法式は明確に其の時代の標準よりも進歩せるものと推定せられたる一團の理想を表示するに存する。ユートピア的理想に到達する方法は大部分想像力の行使に依るものである。推定せられたる標準は是れ等のものをして殆んど何等の價值なからしむるまでに當時の社會状態を遙かに超越してゐる。而もユートピア的社會思想には尙ほ幾分の科學的價值が認められる。想像力の行使は他の方法を以てしては盲目なる個人に對して現實を暴露せしむることが出来る。ユートピア的思想は利己的なる個人をして自己の利己的なるに驚愕せしむることが出来る。又たユートピア的觀念には反抗を伴ふことなくして人を覺醒するの力がある。

而も現實より完全に截斷せられたるの觀あるプラトーンの「共和國」と當時の希臘現實の社會状態とが種々なる脈絡を通じて連絡すると等しく、Moreが其の無何有の理想郷を説くに當つても其の全篇を通じて彼れの心が常に現實の英國を離るゝを得なかつたことは吾人が他の機會に於て述べたるが如くである。(大正九年版拙著「經濟學史研究」一〇八頁參照)。而して希臘哲學者によつて主張せられたる共產主義は個人的利益を公共の福利に従屬せしめつゝありし希臘の國家主義が個人主義的思潮の勃興によつて脅されたるの時、之れに對する反動として生じたるものであると等しく、Thomas Moreの其れは英國社會の營利主義的傾向によつて將さに亡びんとしつゝある共同團體的生活の悲哀を反映するものである。中世末期の農民は單なる隸民に非ずして、其の共同的慣習及び權利義務によつて其の事項を統制し、其の古き自由の傳説と共同團體的生活の情操との中に浸つて居つた農業的協同組合員であつた。彼れ等は圍繞を以て共有物の私領と做し、領主を以て横領者と觀た。而して一千三百八十一年の一揆に際しては彼れ等は

其の古き自由の券狀の還付と其の共有地、放牧地、及び魚漁場に對する其の權利の回復とを要求し、繞されたる垣牆及び埒柵を破壊した。洵に彼れ等は無産の勞働者に非ず、従つて私有財産制度によつて損害を受くるものに非ずして、其の共有權に對する侵害によつて惱さるゝものであり、這般の侵害に對して叛起せるものなるが故に、何等の共產主義的綱要を擧ぐることがなかつた。そは次第に衰滅し行く共產主義的組合の領主及び僧院長の法律的營利的緊縛に對する叛起であつた。そは理論上より觀れば「自然法」(jus naturale)の「市民法」(jus civile)に對する叛起であり、教團僧の法曹に對する叛起であつた。(Beer, op. cit., p. 20)

第十四世紀の英國小農民は指南者及び豫言者を有せざるものではなかつた。フランチェスコ教團僧及び其の他の教團僧並びに修道僧中には最も神の掟に近き經濟組織として共產主義を説く者存し、而して其の總べては虐げられたる勞作階級に同情し、營利的と爲れる僧俗領主の侵害より免れたる自治的民主的なる小農階級を見んと欲した。「彼れ等は天が下の一切諸物が共同に所有せらる可きことをプラトーンによりて説き、Senecaによつて證明した」。(William Langland, Vision of

Piers Plowman, ed. by W. W. Skeat, 1887, B. xx. 273-276.)。而してモーセは隣人の物を切望す可らざることを教ゆるが故に、斯くの如き説教を下民に對して行ふを非議したる Langland は特に「水、氣、火及び智」天の父は是れ等の四つを萬人に共同に與へたと稱してゐる。(ibid., B. vii. 52-53)。彼れが殊更らに「智」を數へて「地」を除きたるは、當時共產主義的煽動普く行はれつゝありしが爲めに農地共有論に對して其の權威を貸すことを避けんとするの目的に出でたるの觀がある。Henry de Bracton の De legibus et consuetudinibus Angliae. には「自然法によれば總べての人は、隸民に至るまで悉く自由である、而も市民法若しくは諸民法は自然權を滅殺し、而して人々は諸民法の下に於ては隸民たるを得る」と稱せられてゐる。(ibid., i. 31.)。凡そ第十三世紀の頃に佛語を以て草せられ、一千五百三十年の交に初めて刊行せられたる古き英國法の摘要 Britton は、本來萬人は自由にして萬物を共同に所持し、而して自然法に準據して生活せるも、古代に於て(en grant antiquité—第十四世紀末に謄寫せられ、たる寫本は此の語を「不正の時代に於て、en grant iniquité」と改めてゐる)自由は束縛と爲つたと宣言してゐる。(ibid., ed. Nichols, I. 32.)。Ockham の William を以て觀れ

ば、墮落前の時代に於ては人間は律令なく、慣習なく、自然的公正に従つて生活した。一切の物は共同に所持せられ、總べての人は自由であつた。墮落後の時代に於ては正しき理性が人間を助けて彼れに、姦通を行ふ可らず、虚言を吐く可らず、共同に生活して自由なれと云ふが如き試練を與へた。不正腐敗發生以後の時代に於て私有財産及び人民の統治權が誘致せられた。(Ex jure naturali omnia sunt communia... et is post lapsam omnes homines secundum rationem viverent, omnia deberent esse communia, nihil proprium; proprietas enim propter iniquitatem inducta est.)。私有財産及び統治の制度は是れ等のものが被治者の利益の爲めに、又た其の同意を経て誘入せられたる場合に於て惟り自然にして合理的なるものである。是れ等の制度は惟り臣民の同意に比例して公正不偏であり、従つて又た自然法の性質を享有するものである。(Ockham, Dialogus—Goldast, Monarchia II, pp. 932-934.)。而して John Wyclif は王政と共產主義を主張した。其の權威を以て小農共同團體を保護する善王は彼れの理想であつた。斯くて彼れは封建制度の崩潰より生じたる二問題即ち如何にして封建割據の制度に代る可き集中的國家的權威を確立す可きか、又た如何にして小農階級を保護

す可きかの問題に答へたのである。社會は其の太初に於ては純清にして共產の状態に在つた。自然法は其の行動を支配した。人間墮落の後に於て自然法の作用は不十分と爲つた。人間の倫理性は脆弱と爲り、人爲的援護を要するに至つた。是に於て乎、神は人民統治の權を設定し、之れに委ぬるに人々の間に愛を育成するの使命を以てした。這般の支配權の最良形態は舊時イスラエル民の間に行はれたるが如き「士師」の統治である。斯くの如き統治が不可能なる場合に於ては王政は之れに次ぐ最良のものとなる。斯くて人民統治は神的起源のものではあるが、而もそは恕せらる可き罪の臭味あるものである。(Dominium civile... sapit tamen veniale peccatum.)。(De ecclesia, c. 14, p. 321.)。然しながら是にして若し共產主義を結合する時は、そは無幸であつて、父權的支配の完全に近づくことが出来る。(De Dominio Civili, I, c. 14, p. 99.)。神は萬物の主である。彼れは惟り勤務を條件として正しきものに其の知行を與へる。而して神と人との間には俗僧、孰れの仲介者も存せざるが故に、彼れは直接に之れを授與する。諸王は神の管領であり、所有主の總べては神の臣下である。神は其の賜物を正しき者のみに與ふるが故に、恕さるゝことなき罪あり。

る者若しくは神恵に浴せざる者は支配権を保持し又は現世的財貨を保有するを得ない。Nullus est dominus civilis, nullus est episcopus, nullus est prelatus, dum est in peccato mortali. (Netter of Walden, Fasciculi Zizaniorum p. 280.)。加之ならず、正しからざる者の所領は劫掠、窃盜、強奪及び横領によつて所得せるものである。(Civ. dom. I, C. 5, p. 34; c. 14, p. 101.)。總べての物は單に神恵に浴せる者にのみ與へられる、而して彼れ等は地と之に滿つるものとの主である。(ibid. c. 6, p. 41.)。然しながら無數の人々は凡ゆる物を共同に保持するに非ざれば、總べての物の主たることを得ない。Ergo omnia debent esse communia. (ibid. I, c. 14, p. 96.)。共產主義は基督教理に違犯するものではない。使徒は總べての物を共に有した。共產主義の私有財産に優るは普遍的真理の特殊の真理に優るが如くである。基督は特殊の人々よりも全體として人間種族を愛した。人々が共有財よりも自己の其れを注意すること大なるが故に、共產主義を以て國家を薄弱ならしむると做すアリストオテレスのプラトーンに對する駁論は實に罪劫深き人々が存すると云ふに等しい。而も共產主義を以て國家を薄弱ならしむものと云ふは非である。蓋し所領を有する者の數、愈々

大なれば、國家の福利に關して彼れ等が休戚を有すること愈々大なるが故である。共通の利害は統一に導く。而して統一は力である。然らば共產主義は國家をして強固ならしむるものであつて、之れを薄弱ならしむるものではない。洵に共有と結合せる統治權は自然的、靈的であり、私有財産に基礎を有する統治權は人爲的であり、廢類的である。(ibid. I, c. 14, pp. 99-100.) (Beer, op. cit., pp. 23-25.)。

然しながら Wyclif の教理は共產主義實現の手段として一切の暴動、叛亂のみならず、黨争をすら排斥するものである。即ち統治は神的起源を有するものであり、之れに對する叛亂は事實、上帝に對する大逆罪を以て所罰せらる可きものである。然るに大體に於て彼れの教理を承認し、自家の見解を以て之れに變更を加へたる「狂僧」(Mad Priest) John Ball は一千三百八十一年の Wat Tyler (Walter the Tyler) 一揆に際して重要な役割を演じた。彼れは Blackheath に於て

“When Adam dalf, and Eve span,

Who was thame a gentilman?”

と叫んで、郷紳と隸農との平等を説いた。封建の權力が漸次弛廢し行くに連れて、

一部の自由を取得せる隷農より、之れを剝奪せんとするの企圖は實に這般の一揆の主因であつた。Tyler は六月十五日 Smithfield に殺され、Ball は七月十五日 St. Albans に於て處刑せられた。

歐洲の經濟的中心は地中海沿岸より大西洋岸及び其の支線に移つた。英國は既に海上貿易に参加するの時機に逢着して居つた。英國の羊毛、織物及び錫は重要な貨物として世界的市場に現れ、倫敦は Lisbon, Anvers, 巴里と並んで世界的都市と爲るに至つた。長き薔薇戦争は幾多の古き領主の家筋を絶滅せしめ、中世的精神の多くは之れと共に消滅した。之れに反して商工階級は長き戦役の間にも疲弊することなくして、終始其の勢力を増進した。Tudor 王朝は此の中層階級に依頼せるものであつた。中央政府の權威を主張し、莊園及びギルドの利益に代ゆるに國家的思量を以てせんとするものは實に同王政の特徴であつた。營利的精神は郷紳の多くを捕ふるに至つた。貴族は其の軍事的職能を喪ひ、家臣は扶持に離れて、不安定なる社會の上に放たれた。More の言を以てすれば、多數の郷紳は其の借地人の勞働によつて懶惰の生活を送るを以て満足せず、土地の實價以上に其の

地代を引上げて、彼れ等の肉を殺ぎ、骨を削つて餘す所がなかつた。而して資本的牧畜業の暴虐は田園と村落とを破壊するに至り、而して農村より驅逐せられたる農民は都市に猬集した。而して地方住民の減少を抑制するの目的を以てせる一切の法令及び方策は悉く無効に歸した。John Cade を首魁とせる一千四百五十年五月及び六月に於ける Kent 人の一揆も亦た Tyler 一揆と等しく共同團體の權利を保護するの力ある強大なる中央政府を熱望するものであつた。

而も新たなる中央集權的國家は必ずしも地方小農民の味方ではなかつた。國王は領主に代つて掠奪者と爲つた。彼れ等の豪華と功名心とは幾度びか國庫を空竭せしめた。蘇國に對する戦争の費用を支辨するが爲めに課せられたる苛税は終に一千四百九十七年に於ける Thomas Flamock 等の一揆を Cornwall に激發した。眞に國家(即ち公共團體 common wealth 又は publique weale)の名に値する Utopia 島の話者 Raphael Hythloday は More によつて此の叛亂後の英國を親しく觀察せるものとして描き出されてゐる。而して More の親友 Erasmus も亦た共產主義に賛するものであつた。彼れは基督教的愛は毫も私有財産を認めざるが故に、其の財

貨を共同財産と看做す可きとを眞の基督教徒の總べてに求めた。(Wilhelm Roscher, *Geschichte der Nationalökonomik in Deutschland*, 1874, S. 42.)。而して一千五百四十九年、即ち More 處刑の後十四年にして、英國小農民の一半は土地に對する彼れ等の自然權を擁護するが爲めに蜂起した。こは實に村落共同團體の破滅に對する最後の大抗議であつた。

四

近代的國家が國民的經濟政策を遂行し、凡ゆる國家的政治的權力を傾注して國民の現在及び將來に於ける經濟的利益を擴張せんとするの時は到來した。嚴正なる經濟制度、誠實なる財政策の誘入によつて國家の信用を恢復し、地方民の窮狀、多數都市の衰滅に對する救濟方法を講ずるは當さに Elizabeth 女王朝に於ける第一の急務であつた。惡貨の整理に始まり、飜がて徒弟條例と爲り、救貧法を以て終れる女王朝の法制は當時の産業組織に對して満足なる基礎を與へた。實に此の時代に於ける英國々力の發展、國富の増加は目覺しいものであつた。

此の時代は又た自然科学に於ける最も所産多くして最も影響大なる發見の時

代であつた。自然に對する研究は哲學の至要なる目的物と化し、而して科學的經驗論は思想家の普遍且つ本然の業務と看做さるゝに至つた。陳套なる科學的研究方法の桎梏より脱却して、自然の法則を發見せんが爲めに新しき徑路を求め、而して又た之れを行ふに當つて人類の社會的狀態を改善せんとせる創造的思想家の少數團體が生じた。第十七世紀初葉に於ける Utopia 的性質を有する思辨的論述の中には Joseph Hall の *Mundus et Alter Idem*, 1607. Erycius Puteanus の *Comus*, 1608. Johann Valenti Andreae の *Christianopolis*, 1620. Sir John Eliot の *Monarchy of Man*, 1622. 等算へることが出来る。而して Francis Bacon は今やスコラ哲學を葬るが爲めに現れて科學の王國の到來を豫言した。彼れが *New Atlantis* の斷篇は一千六百二十二年を以て起草せられ、同二十四年に現在の形態に改訂せられて三年の後に出版せられたるものである。此の書は其の形態に於ては疑ひもなく More の Utopia によつて暗示せられたるものである。然しながら兩者の類似は單に其の外形に止まる。*New Atlantis* は Bacon が科學的方法を表明せる *Novum Organum sive Indicia vera de interpretatione naturæ*, 1620. 中に論述せられたる體系を實行す可き施設と原理とが確立せ

らる可き自由と正義の國土である。Moreは人類の幸福を社會改良と宗教的倫理學とに求めた。然るに Bacon は主として之れを應用科學と生産的技術とに期待した。Moreは汎神論と總べての推理的なる人々に對して平等なる社會權の承認とを強調せるルネサンスの人本主義的時期の代表者であつた。然るに Bacon は人間究竟の再生と成全性とを以て財産法の改革若しくは社會的革命よりも、先づ科學の進歩と科學的精神による人間生活の統制に依頼するものと信ずるに至れる。自然科學時代の代表者であつた。無知は神の呪殃である。知識は吾人をして天堂に翱翔せしむる翼である。(Shakespeare, Henry VI, pt. ii, act. 4, scene 7.)。New Atlantis 島の物語は自然を解釋し、人間の利益の爲めに驚嘆す可き大事業を生せしむるの目的を以て設立せられたるソロモン會館若しくは六日學堂(Solomon's House, or the College of the Six Days' Works)の記述を主眼とするものである。(The Moral and Historical Works of Francis Bacon Lord Verulam and Viscount St. Albans, with introductory dissertation and notes by Joseph Devey, 1913, p. 286 ff.)。此の施設の目的は一切のものをして可能ならしむ可き事物の原因及び内秘の運動に關する知識と人的帝國の境界擴張に

在る。(ibid., p. 297)。

此の島の宗教は寛大仁慈なるものであつて諸國民の和親と外國人及び窮迫者に對する親切憐憫を懇切に教ゆるものである。國王は一意専心彼れの王國と人民とを幸福ならしめんことを期するものである。

此の島に於ては應用科學の多様な作用と生産力の異常なる發達とを通じて社會問題は解決せられる。此の島民は富の生産を容易ならしむるに由つて貧窮を驅除する。科學的方法は人間をして完全なる生活に昇らしむる唯一の階梯である。彼れ等が貿易を續行するは金、銀、珠玉、絹物、香料、其の他如何なる物質的貨物をも目的とするに非ずして、神の最初の被造物たる「光」を得んが爲めである。世界各地の發達を知らんとするが爲めである。(ibid., p. 287)。

Baconの理想的社會は富の共有の上に建設せられずして、知識の共有の上に確立せられる。真理にして發見せられんか、人間は常に自由なる可きものである。

Baconは又た自然科學中には倫理及び政治科學に於て吾人を指導す可き推理の典型を看出さる可きことを知覺した。彼れが自然科學の研究を其れ自體の爲めに説いたことは事實であるが、而も彼れは他方に於ては倫理科學の基礎として之

れを説いたのである。彼れは諸科學連續の大法則を知覺し宣揚せるものである。彼れは諸科學の分離によつて其の相互に蒙る可き損害と、一切の科學を養育す可き偉大なる母として自然科學を認むることなきの事實を痛歎してゐる。(Valerius Terminus, c. 8.; Novum Organum, bk. i. aph. 80, 107; De Augmentis, lib. i. c. 1; lib. iii. c. 4)。

而して第十七世紀最大の經濟論者 Sir William Petty は彼れの精神に従つて行動せるものであつた。(前掲「經濟學史研究」八〇九頁參照)。

而して國家の安固が其の富に依頼すると做すの信念は次第に確固と爲つて行く。Petty より恰も一百年を隔てたる Adam Smith は明かに國民的繁榮を以て其の標的と爲した。彼れは自國の物質的繁榮を助長す可き手段方法の研究に其の精力を集中した。彼れは生活の資料にして増加し、若しくはより一般に利用し得可きものと爲つたならば生活は必然公私共に改善せらる可きものであつて、毫も生活其の者の規範たる可き理想を提示するの必要なものであることを屢々推定せるの觀がある。斯くて經濟學は宗教的倫理と社會改革の標的とを失つたのである。

職業的企業家の成立と資本家との鬭争

向井 鹿松

株式會社は現代資本主義經濟社會に於ける代表的經營形式である。換言すれば今日一般に事業を經營せんとする者は之を株式會社の形式の下に行ふのが普通である。之を Adam Smith が富國論に於て株式會社の適用せられる事業の版圖を狭く解したる當時に比すれば實に雲泥の相違を生じてゐるのである。Smith の如きは一般に株式會社の事業經營上に於ける不利を強調し、假令株式會社に適する事業たりとも、若し之に要する資本の高大ならず個人資本にて事足る場合には、株式會社による可からずと論じたのである。則ち彼は株式會社を以て大資本調達に必要な技術的手段となしたのである。爾來學者は大資本の調達を以て株